

# 京で介護従事者対象にスクール

## 悲しみのケアや 看取りにどう対応

高齢者人口の増加とともに、在宅療養の充実が叫ばれ、終末期の介護や訪問看護の現場で死別の悲嘆(グリーフ)や看取りにどう対応したらいいのか、京都でも模索されている。介護職向けのグリーンケアスクールが開講した一方、在宅で看取りを支える家族向けのリーフレットをつくらせた訪問看護ステーションもある。

京都グリーンケア協会(京都市下京区)は4月、グリー

### 家族向けリーフレットも

人副理事長の古梅里美さん(44)「和歌山市」は「施設でも家にいるのと同じように看取りができた。プロとして振る舞いを学び、持ち帰りたい」と意欲を見せる。同コースの第2期は6月3日開講。問い合わせは京都グリーンケア協会☎075(741)7114。

洛和会訪問看護ステーション北花山(山科区)は昨年3月、「ご家族の皆様へ」と題したリーフレットを作成した。看取りを前に予測される本人の症状の変化や対処法などをまとめている。

自宅で最期を迎えよう決めても、本人や家族にとって死への過程は未知のもの。容体の変化に直話し、入院させようか気持ち揺れる人もいる。訪問看護師が注意点を心構えをメモで渡したら、安心できたという声が寄せられたことから、スタッフたちがよく受ける質問と回答をリーフレットに整理した。

グリーンケアスクールに介護・福祉従事者向けコースを新設した。「介護や福祉の現場で亡くなる人と接する機会が増え、グリーフケアの必要性が増す」と考えるからだ。2011年秋から葬儀従事者向けと、看護師・助産師向けの二つのコース(全6回)

受講者の一人、社会福祉法



患者の気持ちに立ったケアを話し合った授業(京都市下京区・京都グリーンケア協会)



「リーフレットで家族の死への不安を緩和できたら」と話す内田倫子所長(左)たち。山科区洛和会訪問看護ステーション北花山

「食欲は低下し、ほとんど食べ物を口にしないくなり、飲み込むことは困難になります」「名前を呼んだり手足をさすったりして、ご本人の孤独感や不安感を癒やすことができます」「などと、簡潔に述べている。

家族に手渡す際には主治医の判断を仰ぐ。訪問看護師にとってもリーフレットは安定したケアをする一助となる。内田倫子所長(47)は「自宅で家族を看取る人は増えている。不安が和らいだり、納得のいく看取りができるよう手助けができた」と話している。(日下田貴政)